



技術と信頼を重ね Oリングで世界と繋がる

株式会社秋田オイルシール



専務取締役
沢谷 繁男
Shigeo Sawaya

株式会社秋田オイルシール

〒018-2304 秋田県山本郡三種町豊岡
金田字堀切126-1
TEL. 0185-72-4141
FAX. 0185-74-5903
E-mail h-of@akita-aos.com
URL http://www.akita-aos.com

【会社概要】

創業当初からの基本理念は「秋田に雇用を創る」。本社・山本工場のほかにニツ井工場・にかほ工場、ベトナム工場を持ち、Oリング、オイルシール、Xリング、ガスケット、ゴム製品の製造販売を行う。顧客ニーズに応えるために、高性能で信頼性の高い製品づくりを目指している。

創業年:昭和59年



A

世界水準の技術とたゆまぬ商品開発努力の継続で、あらゆる顧客のニーズに対応。秋田生まれ・秋田育ちの企業として邁進する

秋田を拠点に世界水準の製品を提供

“オイルシール”はオイル(油)をシールする(封じる)部品である。身近な例では、お弁当箱のふたや水筒のキャップなどに同様の部品が使われている。これがものづくりの最先端においては、シールする対象が気体(空気やガス)・液体(水や薬液)・固体(粉塵や異物)と多種多様になり、その機能は気密性と摺動性の両立など、難しい要求を課されるようになった。

精緻で複雑な機構において、部品間の動作を成立させ、最大限の性能を引き出すための要となるオイルシール、今回紹介する「秋田オイルシール」は、山本郡三種町から世界を相手に、そんな部品を手がけている。

当社の創立は昭和59年。同時期にドイツの自動車部品メーカー Bosch 社から、燃料噴射バルブ用の重要保安部品である直径0.825ミリのOリングの受注を獲得したことにより、自信を深め、成長してきた。

現在、当社が取り扱う工業用ゴム製品のアイテムは約13,000種。その用途は自動車・電気製品・医療機器・住宅設備・インフラなど多岐に渡り、中でも自動車関連事業が売上げの50%を占めている。

顧客ファーストに徹した製品づくり

製品の高い評価の裏には、業界の流れと違う取り組みがある。高性能かつ高品質な製品づくりを目指す同社では、成型工程において、生産効率を重視するインジェクション成型では



A 用途に合わせて、さまざまなサイズや性能をもつミニOリング
B 製品形状やニーズにあった金型で製品を形状加工する成型作業

なく、ゴム本来の特性を引き出すコンプレッション成型を採用している。

「基本はゴムに無理をかけないこと、そうしたらゴムがちゃんと仕事をしてくれるんです」と沢谷専務は言う。そういった原料の特性を見極め、狙い通りに製造するための金型製作、性能や品質を検証するための試験装置も充実させたことで、同社のものづくりの歯車は今、滑らかに回っている。

近年では「マイナス40℃の極低温下でも優れた性能を発揮するゴム材料」などの開発に成功。業界動向や技術進化を注視しながらチャレンジな課題に挑戦し、付加価値を高めている。「このところは大手企業から製品開発段階での提案を依頼されることが増え、良い信頼関係が築けてきている」と沢谷専務は手応えを口にす

る。現在、秋田オイルシール関連グループ全体では、県内で400人が働いている。受注の変動に対応するため、海外に工場を進出させたほか、2015年にはにかほ市に工場を新設し、ますますの需要増に応えていく考えだ。しかし、「まだまだ、まだまだこれからです」と沢谷専務は微塵も緩みを見せない。“世界と勝負できるものづくりで秋田を支える”、同社の飽くなき挑戦は、その礎に秋田の未来を見据える強い意志がある。